

2023（令和5）年度

駒澤大学 × SDGs

意識調査 結果報告書



駒澤大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



目 次

1. 駒澤大学SDGs意識調査：概要	03
1. 駒澤大学SDGs活動報告書	04
2. 駒澤大学SDGs意識調査とは 目的・方法・対象	05
2. 駒澤大学SDGs意識調査：結果	08
1. 回答者プロフィール	09
2. SDGsの認知度	10
3. 駒澤大学のSDGs活動に対する認知・評価	12
4. SDGs活動に対する関心・意欲	18
5. SDGs活動の経験	26
6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲	32
3. 資料	40
1. 周知用ポスター	41



1. 駒澤大学SDGs意識調査：概要

1. 駒澤大学SDGs活動報告書
2. 駒澤大学SDGs意識調査とは



1. 駒澤大学SDGs活動報告書

駒澤大学は、2022年4月28日に「駒澤大学SDGs実行宣言」を公開しました。この宣言に基づいて、SDGsの達成に貢献できるように、さまざまな活動をおこなっています。

駒澤大学の学生および教職員が取り組んだSDGs活動や、駒澤大学が組織として行ったSDGs活動は、2021年度より「駒澤大学SDGs活動報告書」としてまとめ、大学のホームページなどで公開しています。

これまでに発行した「駒澤大学SDGs活動報告書」につきましては、以下のURLよりご参照ください。

駒澤大学SDGs活動報告書：

<https://www.komazawa-u.ac.jp/social/sdgs/sdgsreport.html>



2. 駒澤大学SDGs意識調査とは

駒澤大学SDGs意識調査について、まず、調査目的を示します。

2 - 2. 調査目的

本調査は、駒澤大学の学生（学部生・大学院生）を対象として、本学の学生がSDGsについてどのような関心をもっているのか、どのような活動をしたいのか、そのためにどのようなことを学びたい、経験したいと考えているのかを知るために行ったものであり、今後の駒澤大学のSDGs活動の推進施策を講じる際に役立てることを目的としています。



2. 駒澤大学SDGs意識調査とは

ここでは2023年度に行った調査の概要のうち、調査方法についてご報告します。

2-2. 調査手法

調査期間：2023年10月16日（火）～2023年11月30日（日）

調査方法：Google Formsを利用したインターネットアンケート調査

周知方法：

駒澤大学ネットワークコミュニケーションシステム「KONECO」に回答依頼を掲載しました。

駒澤大学教職員情報システム「Garoon」に周知協力依頼を掲載しました。

必修科目・全員履修科目・演習等を担当している教員に対し周知協力依頼を行い、授業支援システム「WebClass」に回答依頼を掲載していただきました。

ポスター（資料1参照）を作成し、学内に掲示しました。

【ポスターの掲載場所】

駒沢キャンパス：北門、3号館の掲示板（A1サイズ）

本部棟前（A1サイズ）

1号館、4号館、7号館、8号館の掲示板（A4サイズ）

第一研究館、第二研究館の掲示板（A4サイズ）

深沢キャンパス：受付ロビー掲示板・各フロア掲示板（A4サイズ）

アンケート調査および周知は、すべて日本語で行いました。



2. 駒澤大学SDGs意識調査とは

引き続き2023年度に行った調査の概要のうち、調査対象およびその内訳についてご報告します。

2-3. 調査対象およびその内訳

調査対象：調査期間において駒澤大学に在籍する学部生（14,062名）
駒澤大学大学院に在籍する大学院生（208名）

※ 学生数は、2023（令和5）年10月31日現在のデータ。

調査対象の内訳：

【学部】

学部・学科	1年			2年			3年			4年			合計					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
仏教	(仏教学部)			158	46	204	162	39	201	—	—	—	—	—	—	320	85	405
		禪	—	—	—	—	—	—	—	66	11	77	76	10	86	142	21	163
		仏教	—	—	—	—	—	—	—	84	21	105	80	40	120	164	61	225
		小計	158	46	204	162	39	201	150	32	182	156	50	206	626	167	793	
文学		国文	48	100	148	51	93	144	53	80	133	67	76	143	219	349	568	
		英米文	64	65	129	64	87	151	55	84	139	55	79	134	238	315	553	
	地理	地域文化研究	50	17	67	59	19	78	54	17	71	47	25	72	210	78	288	
		地域環境研究	63	14	77	51	22	73	47	18	65	40	18	58	201	72	273	
	歴史	日本史学	67	39	106	68	43	111	55	36	91	54	47	101	244	165	409	
		外国史学	47	33	80	54	40	94	44	29	73	36	37	73	181	139	320	
		考古学	28	18	46	25	24	49	18	14	32	16	22	38	87	78	165	
	社会	社会学	25	47	72	25	44	69	27	47	74	29	37	66	106	175	281	
		社会福祉学	25	63	88	27	58	85	31	50	81	31	53	84	114	224	338	
		心理	29	65	94	42	57	99	35	49	84	34	49	83	140	220	360	
		小計	446	461	907	466	487	953	419	424	843	409	443	852	1,740	1,815	3,555	
経済		経済	277	88	365	286	90	376	234	95	329	299	86	385	1,096	359	1,455	
		商	174	103	277	198	82	280	162	75	237	161	86	247	695	346	1,041	
		現代応用経済	114	54	168	107	44	151	116	42	158	130	45	175	467	185	652	
		小計	565	245	810	591	216	807	512	212	724	590	217	807	2,258	890	3,148	
法	法律	昼間主コース	192	139	331	223	110	333	202	127	329	203	113	316	820	489	1,309	
		夜間主コース	122	42	164	106	39	145	83	35	118	105	31	136	416	147	563	
		政治	161	69	230	165	66	231	158	60	218	167	76	243	651	271	922	
		小計	475	250	725	494	215	709	443	222	665	475	220	695	1,887	907	2,794	
経営		経営	241	128	369	254	116	370	231	110	341	247	116	363	973	470	1,443	
		市場戦略	94	106	200	106	95	201	92	94	186	109	92	201	401	387	788	
		小計	335	234	569	360	211	571	323	204	527	356	208	564	1,374	857	2,231	
医療健康科	診療放射線技術科	41	29	70	33	25	58	37	23	60	36	31	67	147	108	255		
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア	146	169	315	141	175	316	131	170	301	172	182	354	590	696	1,286		
	計	2,166	1,434	3,600	2,247	1,368	3,615	2,015	1,287	3,302	2,194	1,351	3,545	8,622	5,440	14,062		

【大学院】

大学院	1年			2年			3年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修士課程	43	33	76	44	27	71	—	—	—	87	60	147
博士後期課程	6	3	9	3	3	6	13	3	16	22	9	31
専門職学位課程	4	3	7	9	3	12	8	3	11	21	9	30
計	53	39	92	56	33	89	21	6	27	130	78	208



2. 駒澤大学SDGs意識調査：結果

1. 回答者プロフィール
2. SDGsの認知度
3. 駒澤大学のSDGs活動に対する認知・評価
4. SDGs活動に対する関心・意欲
5. SDGs活動の経験
6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲

※ 記述式の回答については、個人が特定されることがないように、一部抜粋したうえで記載しております。
該当箇所は以下のとおりです。

- 3-1-1 駒澤大学への期待（その理由）
- 3-2-1 「駒澤大学SDGs活動報告書」に対する感想・意見
- 3-3-2 「駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」に対する感想・意見
- 4-2-1 最も関心のあるSDGsの目標（その理由）
- 4-4 最も関心のあるSDGsの目標（その理由、卒業後）
- 5-1-2 SDGsについて学んだ機会（概要）
- 5-2-2 SDGsについて取り組んだ機会（概要）
- 6-1-1 駒澤大学に取り組むことを最も期待するSDGsの目標（その理由）
- 6-2 駒澤大学へのSDGsにかかわる期待



1. 回答者プロフィール

ここでは本調査の有効回答数およびその内訳を示します。

1-1. 有効回答数およびその内訳

有効回答数：学部生（531名） 大学院生（7名） 計 538名
 回収率 3.77%

1-2. 回答者の内訳

【学部】

学部・学科	1年				2年				3年				4年				合計								
	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計					
仏教	(仏教学部)				10	11	0	21	0	0	0	0	—	—	—	—	10	11	0	21					
	禪				—	—	—	—	—	—	—	—	2	0	0	2	1	0	0	1	3	0	0	3	
	仏教				—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	1	2	0	0	2	3	0	0	3	
	小計				10	11	0	21	0	0	0	3	0	0	3	3	0	0	3	16	11	0	27		
文学	国文				7	10	1	18	4	13	0	17	7	19	0	26	3	4	0	7	21	46	1	68	
	英文				0	0	0	0	5	8	0	13	10	10	0	20	2	4	0	6	17	22	0	39	
	地理	地域文化研究				1	0	0	1	11	4	0	15	0	0	0	1	0	0	1	13	4	0	17	
		地域環境研究				7	1	0	8	4	2	1	7	0	1	0	1	0	1	0	1	11	5	1	17
	歴史	日本史学				3	1	1	5	0	0	0	0	2	3	0	5	2	2	0	4	7	6	1	14
		外国史学				6	3	0	9	2	0	0	2	2	0	4	2	1	0	3	12	6	0	18	
		考古学				1	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5	
	社会	社会学				0	0	0	0	0	1	0	1	0	6	0	6	1	1	0	2	1	8	0	9
		社会福祉学				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	1	2	0	3		
	心理				1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	3	0	5		
	小計				26	21	2	49	26	28	1	55	21	41	0	62	13	16	0	29	86	106	3	195	
	経済	経済				24	7	0	31	6	1	0	7	2	7	0	9	3	0	1	4	35	15	1	51
商				16	16	1	33	4	4	0	8	2	2	0	4	2	0	0	2	24	22	1	47		
現代応用経済				—	—	—	—	0	8	7	0	15	1	0	0	1	1	0	2	10	8	0	18		
小計				40	23	1	64	18	12	0	30	5	9	0	14	6	1	1	8	69	45	2	116		
法	法律				9	4	1	14	3	0	0	3	7	4	0	11	4	1	0	5	23	9	1	33	
	政治				18	8	0	26	2	1	0	3	2	2	0	4	4	1	0	5	26	12	0	38	
	小計				27	12	1	40	5	1	0	6	9	6	0	15	8	2	0	10	49	21	1	71	
経営	経営				5	4	1	10	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	7	4	1	12	
	市場戦略				1	1	0	2	3	1	0	4	1	2	0	3	0	0	0	0	5	4	0	9	
	小計				6	5	1	12	4	1	0	5	2	2	0	4	0	0	0	0	12	8	1	21	
医療健康科	診療放射線技術科				0	1	0	1	3	15	0	18	1	0	0	1	1	0	0	1	5	16	0	21	
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア				24	20	0	44	3	5	0	8	7	12	0	19	3	6	0	9	37	43	0	80	
計				133	93	5	231	59	62	1	122	48	70	0	118	34	25	1	60	274	250	7	531		

【大学院】

大学院	1年				2年				3年				合計			
	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計
修士課程	1	1	1	3	1	1	0	2	—	—	—	—	2	2	1	5
博士後期課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	1	2
専門職学位課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	3	1	1	0	2	0	1	1	2	2	3	2	7

※ 表中の「—」は「回答しない」の回答者数を示している。



2. SDGsの認知度

2-1. SDGsの認知度

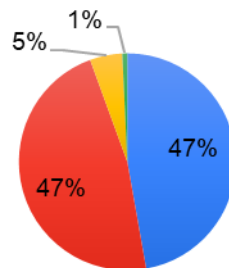
回答者全員に「このアンケートを行う前からこのアンケートを行う前から「SDGs」という言葉を知っていましたか。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 聞いたことがあり、言葉の意味や内容を説明できる。
- ② 聞いたことがあり、言葉の意味や内容をある程度理解している。
- ③ 聞いたことはあるが、言葉の意味や内容はよくわからない。
- ④ 聞いたことがない。

【結果】

「① 聞いたことがあり、言葉の意味や内容を説明できる」、「② 聞いたことがあり、言葉の意味や内容をある程度理解している」を合わせて、94%の学生が、「SDGs」という概念について一定以上の理解をしていることが示されました。また、「③ 聞いたことはあるが、言葉の意味や内容はよくわからない」まで含めると、ほとんどの学生（回答者の99%）が「SDGs」という言葉を耳にしたことがあるという結果となりました。

SDGsという概念の認知度 (n=538)



■ ① 聞いたことがあり、言葉の意味や内容を説明できる。	47% (254名)
■ ② 聞いたことがあり、言葉の意味や内容をある程度理解している。	47% (254名)
■ ③ 聞いたことはあるが、言葉の意味や内容はよくわからない。	5% (26名)
■ ④ 聞いたことがない。	1% (4名)



2. SDGsの認知度

2-2. SDGsの「17の目標」の認知度

回答者全員に「このアンケートを行う前からSDGsの「17の目標」のことを知っていましたか。」と聞きました。

この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

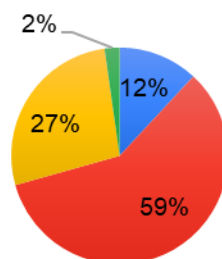
- ① 見聞きしたことがあり、各目標の内容を説明できる。
- ② 見聞きしたことがあり、各目標の内容をある程度理解している。
- ③ 見聞きしたことはあるが、各目標の具体的な内容はよくわからない。
- ④ 見聞きしたことがない。

【結果】

「SDGs」の「17目標」について、約1割の学生が「① 見聞きしたことがあり、各目標の内容を説明できる」と回答しました。

また、「② 見聞きしたことがあり、各目標の内容をある程度理解している」と合わせると回答者の3/4近くに及び、多くの学生が「17目標」について具体的に理解しているということが示されました。

SDGs「17目標」の認知度 (n=538)



- | | |
|-------------------------------------|------------|
| ■ ① 見聞きしたことがあり、各目標の内容を説明できる。 | 12% (64名) |
| ■ ② 見聞きしたことがあり、各目標の内容をある程度理解している。 | 59% (316名) |
| ■ ③ 見聞きしたことはあるが、各目標の具体的な内容はよくわからない。 | 27% (146名) |
| ■ ④ 見聞きしたことがない。 | 2% (12名) |



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-1. 駒澤大学への期待

回答者全員に「駒澤大学の学生として、本学が積極的にSDGsに取り組むことを期待しますか。」と聞きました。

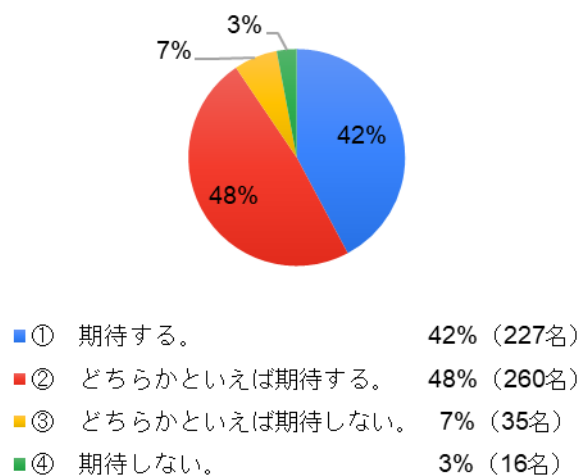
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 期待する。
- ② どちらかといえば期待する。
- ③ どちらかといえば期待しない。
- ④ 期待しない。

【結果】

「① 期待する」との回答が4割、「② どちらかといえば期待する」という回答も合わせると、駒澤大学が積極的にSDGs活動に取り組むことを期待するという回答が、9割に及びました。

駒澤大学によるSDGs活動への期待 (n=538)





3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-1-1. 駒澤大学への期待（その理由）

回答者全員に「3-1の回答理由をおしえてください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。

合計150名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

○3-1で「①期待する」と回答した理由

- SDGsに取り組むことで、学生が住みやすい環境に繋がると考えるから。
- 多くの学生が所属するため、積極的な取り組みは社会貢献に値するから。
- 弊学の生徒を対象としたアイデアコンテストに興味を持ち、東急グループとドトールコーヒーによるSDGsの取り組みを知ったため、駒沢大学駅を利用する学生としては弊学の取り組みにも期待したい。
- 大学としてSDGsに積極的取り組みことは大学の好感度を上げるだけでなく、結果として大学の評価や質を上げることに繋がると考えているから。
- 様々な取り組みが積極的に行われていると感じるから。
- 取り組むか取り組まないかでいったら取り組むべきだと思うから
- 資源の枯渇が問題視される中で、このような知識を身に付けることは大切だと考えているため
- 現在、SDGsは社会的課題にもなっているから。
- みんなやってそうだから
- 国民全体で取り組むべき課題であると思うから。
- 環境問題が深刻化してきている今、一人一人が意識して取り組んでいく必要があると思っているから。
- 平和がいいから
- これからの時代にはSDGsという言葉はどの会社でも必要となるため、その知識は必要であると考えため。
- 社会に出た時に役に立つと思うし、自分のためにもなると思うから。
- 社会の改善につながるから。
- イメージアップ
- 駒澤大学も社会の貢献をしてほしい
- 高校生の時SDGsについてくわしく学んだことがあり、環境のために取り組んだほうが良いなと思ったからです。
- 今、様々なところで積極的にSDGsの活動しているから
- 多くの会社や学校、個人がSDGsに向けて行動するべきだと思っているから
- 世界的に取り組まれていることなので大学として取り組むのは良いと思うから。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- 「平和と公正をすべての人に」という目標は仏教の教えに通じており、したがって駒澤大学の建学の理念にも沿っていると考えられるから。
- 地理とSDGsは関わりが大きいと思うから。
- 名の知れた大学だから。
- SDG's 達成のために個人が動くことは難しく大学という大きな組織が主導してくれたら、私たち個人も目標達成のために活動しやすく、またSDG's を知らない人にも知ってもらえるから。
- 仮に自分が所属する団体がSDGsに反する行動をとると、社会からの批判が大学ではなく、生徒たちに向くから。
- 学内でSDGsに関するイベントが度々行われているから。
- SDGsは大切なことだと思うから
- 社会の動きに敏感に動ける学びの場所であるべきだと考えているため。
- 関心があるから
- 現在社会の問題となっているSDGsについて社旗に出る準備段階の大学生である私たちがSDGsについて知っておく必要があると思うから。
- より多くの学生が快適な空間で勉学に励んでいくべきであるから。
- 環境問題や貧困問題に興味があり、改善するべきだと考えているため。
- 大きな組織から活動していくことが、人々に広がるのにいい事だと思うから
- いいことだから
- 未来の地球のために必須
- 大学が主体的にsdgsを推進すれば多くの人に知ってもらえると思うから。
- SDGsへの取り組みは、現代的な思考を柔軟に取り入れた姿勢だと感じるため。
- 他人事ではなく一人一人が意識を持ち実行することが大切だと思うから。
- 地球の未来のために
- SDGsは今後の社会や未来を考えた際に大切なことであり、駒澤大学が積極的に取り組むことは大きな効果が期待できる。またこれからSDGsを実践する人達の士気を上げることにも繋がると考えるため。
- 入学前からSDGsの取り組みをしていることを知っているから
- 大学でSDGSへに対する活動が具体的に気になるから。
- 本学におけるSDGs活動の恩恵を受けたことがあるから。
- 社会を変えてほしいから
- ゼミで子供の貧困について学んでいるのですが、大学と協力して大学生と大学全体で何かしたいなと考えているからです。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- 社会全体的にSDGsに取り組んで来ていると考えているので、その流れに乗るべきだと思うため。
- 地球温暖化など世界の危機を個々が改善しなくてはいけない。未来に繋げるために必要
- SDGsを理解して取り組むことは日本だけでなく全世界の問題解決に繋がるから。
- 現在世界中でこの活動が推進されているため。
- SDGs自体本来意識せずに行えるようになるべきだと考えており、本学にも自分を含め当たり前が出来たら素敵だと思うから。
- これから先も大学が社会的に評価を得るためにも、大学全体として意識してSDGsの目標達成のために行動を実践していき必要があると考えるから。
- 高校生の頃から継続して実施してきたため。
- 取り組む人は多ければ多いほど意見は多くなるから良い。
- 環境をよくする活動は積極的にしていった方が良いと思うから。
- 日本だけでなく世界全体で取り組んでいることなので、駒沢大学にもぜひ取り組んでほしいです。また大学が取り組んでいることを学生が知ることで、SDGsに対する意識を高めることができるかもしれないからです。
- 取り組むことは悪いことではないし、良いことだから
- 全世界の目標となっているから
- 素晴らしいから
- SDGsはみんなで達成しないといけないものだから
- 大学という先進的な研究機関であり、社会問題でもあるSDGsに取り組むことは当然のことであり、せめて大学内だけでも多様性が認められ一人一人が自分らしく過ごせる場所、コミュニティでなければならないと思うから。
- 小さな力かも知れないが、それが大事なのではないかと思うためマイボトルを配る活動などはとてもいいと思う。
- 駒沢大学は常に時代の先頭にいる大学であってほしいから。
- ボランティア活動は大事だと思うから。
- 100円朝食や食支援の取り組みを日頃から利用し助かっているから。
- 取り組んで悪いことはないから。
- 学校が方針を示しているので、大学に所属している身として賛成できる。
- 高校生の時にはSDGsについてディベートすることなどが多かったが、今大学生になってからはあまり取り扱わなくなってしまったから。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- 今世界的に取り組まれているから
 - より良い環境になると考えるから
 - それが地球のためになるなら協力して欲しいから
 - この世界をみんなで長く生きていきたい
 - 学生なため、できる範囲があるので沿って行えればなと思います。
 - SDGsに取り組むことで一人一人が過ごしやすくなると思うから。
 - 食糧支援やオイテルなどの活動を実際行っており、期待できると感じた。歴史の長い大学だが、先進的だと感じているから。
 - 自分の大学により自信を持てるから。
- 3-1で「②どちらかといえば期待する」と回答した理由
- まずは学内のことを最優先でやった上で、SDGsにも取り組んでいくのならいいと思う。
 - SDGsの内容を全員が理解したうえで正しい行動であれば積極的な行動を期待します。
 - 今後の未来のためにどんな形であっても働きかけることは良いきっかけになると考えるため。
 - 環境対策などの社会問題に、学生が取り組める場は多い方が良いと考えたため。
 - 環境を持続可能にする、という活動は当然推進されるべきであるから
 - 国公立大学と比べて比較的緩い制約の中でSDGsに取り組むことができると思うから。
 - 大義名分は持つに越したことはないから
 - いい環境作りになるから
 - SDGsについてなんとなく理解しているが詳しくはよく知らないから。
 - SDGsしてて損はないと思うから
 - SDGsに関わることが知りたい
 - やった方がいいものは積極的に行った方が良いと思う。
 - 持続可能な社会を作っていくことは非常に重要であり、大学としてこれに取り組んでいくというのはとてもいいことであると思う。しかしこれらすべてをこなすには膨大な努力、協力、時間が必要であり、もしこれらを過剰に強制していくとなると学生に過剰なストレスを与えかねないと考えた。つまりさじ加減が大切ということを言いたい。
 - 環境に配慮することは良いことだと思うから。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- なるべく多くの方が生きやすい世界になると有難いから。その一環として本学も取り組むべきだと考えるから。
- 自分の住む環境を整えることはいいとこだから。
- 世界中が取り組んでいる問題に対して大学が積極的に取り組むことによって、学生の意識にも良い影響が現れるのではないかと思うから。
- 駒大生も社会の一員であるから
- 環境や身の回りで問題が起きた時に役に立つかもしれないから
- 大学としてと言うよりも、地球環境の保全の為、社会全体で取り組む必要があると思います
- SDGsという言葉はもちろん、日常においてそれらの活動に対しても見聞きすることが多いため、自分も興味を持っているのと、機会があればそういった活動に参加してみたいと考えるため。
- いいことだから
- 大学が取り組むことで学生も取り組みやすい環境になるため
- 環境に良く良い取り組みだと思うが、紙ストローといった不便なものには賛同できないため。
- 将来の地球を守るため
- 近くに公園があり、自然について考えやすいと思うから
- 社会貢献したい
- SDGsに限らないが、誰かが不利益を被る事が無く社会の役に立つことならやったほうが良い。
- SDGsに囚われるあまり本来の目的や社会での役割などを失って欲しくないから
- できることから始めれば良い。全てやる必要はないと思うから。
- 今後社会に出る上で必要不可欠だと思うから
- GMS学部の各務ゼミを中心として取り組んでいるように見受けられるため。
- 今後の社会をより豊かなものにするために、一人一人が行動しなければならないものだから。
- 特に生活で意識していないから
- たかが一団体が活動したところでたかが知れているのではないかという考えと、駒澤というある程度の知名度を持つ団体が先導することで改善されていくのではないかという考えがあり、最終的にやらないよりは少しでも取り組むのがいいのではないかと思ったからです。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- 大学は教育機関なので、大学が率先して行うことで生徒にもSDGsの理解を深めることが出来ると思う。
 - 地球温暖化キツイ、特に夏
 - 社会格差をなくし全員が安全に生活する必要があるから
 - 本学はSDGsに関する活動や授業などに取り入れているイメージはないですが、これはこれからの私たちの生活に深く関わることなのでもっと積極的に取り組むべきだと感じます。
 - 悪いことではないと考えているため
 - 地球の保全活動は皆がやらねばならないから。
 - 学生が勉学に励みやすい環境造りという点にも繋がってくると考えたから。
 - 世界共同で取り組むべき目標であるから
 - 必要なことだと感じたから
 - SDGs推進の意義は理解しているつもりであり、進められるべき取り組みであると思うが、自分自身への直接的な影響が今まで特に感じられたことがないため、あまり積極的な意識はしていない
 - SDGsに取り組むのは良い事だと思うが、あまり自分の身近な問題だと実感できないから。
 - 大事なことから
 - 日々ニュースで、国際的な紛争を目にする機会が多いなかで、紛争による犠牲者や貧困に対する援助が間接的にでも大学でできるのであれば良いと思うから。
- 3-1で「③ どちらかといえば期待しない」と回答した理由
- 大学の生活を制限してまで取り組むことではない。
 - SDGsが全て正しいかと言うとそうでは無いから
 - 学業に直接関係しないので
 - どうでもいい。自分のやってみたい事だけに身を削りたい
 - 中途半端な取り組みや間違った取り組み方をして不便になるくらいならしてほしくない。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

(つづき)

- そもそも、SDGs自体が理想論すぎると考えているからです。たしかに、これら17の目標は達成したら素晴らしい社会が待っていると感じています。しかし、どれもこれも現段階では実現不可能な概念です。たとえば、1番目の目標などの貧困によって発生した問題は、日本や中国、欧米といった先進国が東南アジアやアフリカ、南アメリカなどの発展途上国から資源と資金を優先的に獲得することでその先進国という地位を獲得してきました。すなわち、南北問題であり、富が偏在しています。そのため、SDGsを達成するためには先進国がその特権を放棄しなければ達成できないと考えています。しかし、先進国国民は豊かな社会から少しでも貧しくはなりたくないでしょう。正直に言うと、私もそんなのはまっぴら御免です。ただ、SDGsの全てを否定する気はありません。もちろん、先進国の経済活動で出た無駄などは削除し、効率的な社会を構築すべきです。

以上の私の理由をもちまして、本校はそこまでSDGsを推さなくても宜しいかと存じます。

- 個人が取り組むべき目標でもあり、自由意志が大切だと思うため
 - あまり経済や経営関連の授業で学んでいないから
 - SDGsを知らない人の方が多いと考えたから
 - SDGsを個人的に重要視しておらず、大学に取り組んでほしいという気持ちもないため。
 - 高校時代の教師がなんでもSDGsとうるさく腹立ったので、もううんざりだから
 - はっきり言ってどうでもよい
 - SDGsにあまりくわしくないから
- 3-1で「④ 期待しない」と回答した理由
- 不当に利用して利益だけを追求し、結果的に上辺だけになると見込んでいるから。
 - SDGsはどっちかという政治に関わる庶民を動かす活動ですので、教育の政治的中立性を忘れないでください。
 - 自分にとって関係がないから



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- 本学が組織として学生に向き合う機会に際して縦割り行政を改善できないでいるかぎり、組織として資源をまめでSDGsの実現に誠実に取り組むことなどのことは想像が付きにくいと感じるから
- SDG'sを促進されることで、紙媒体のレジュメ配布がなくなったら困る。
- 紙ストローは嫌だ。
- 面倒臭いから
- フードロス以外現状に満足しているため
- SDGsの目標が現実的でないから
- 目先の目標過ぎるから。
- SDGsとは言ってイベントごとのように行っているがこれらは行われて当然のことであるから期待するとかどうこうの話ではないと思う。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-2. 「駒澤大学SDGs活動報告書」の認知度

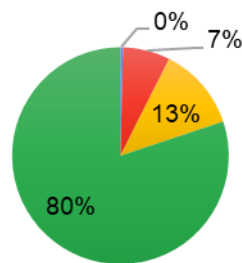
回答者全員に「駒澤大学では昨年度より「駒澤大学SDGs活動報告書」を公開しています。読んだことがありますか。」と聞きました。
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 熟読した☺
- ② 読んだことがある。
- ③ 公開していることは知っていたが、読んだことはない。
- ④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹

【結果】

「駒澤大学SDGs活動報告書」について、回答者のうち8割がその存在自体を知らないという結果となりました。
また、報告書を公開していることを知っていても、実際に読んだことがあると回答した学生は7%と、1割に満たない状況です。
この結果から、「駒澤大学SDGs活動報告書」の公開の方法やその周知方法はもとより、駒澤大学のSDGs活動にかかわる情報の周知のあり方についてさらに検討していく必要があることがわかりました。

「駒澤大学SDGs活動報告書」の認知度 (n=538)



■ ① 熟読した☺	0% (2名)
■ ② 読んだことがある。	7% (38名)
■ ③ 公開していることは知っていたが、読んだことはない。	13% (67名)
■ ④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹	80% (431名)



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-2-1. 「駒澤大学SDGs活動報告書」に対する感想・意見

回答者全員に「「2022（令和4）年度 駒澤大学SDGs活動報告書」のご感想、ご意見がありましたらおしえてください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。合計22名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- 3-2で「② 読んだことがある。」を選択した回答者の感想・意見
 - 全ての項目において取り組みを行っており、その中でも普段生活を送っている中では気づくことができないこともあったので、とても有意義でした。
 - 結構熱心に取り組んでいるのだなと感じた。
 - 学長メッセージでは「ダイバーシティ」が強調されているが、学内では学生への対応にダイバーシティの欠陥が続いている現実、そして組織の最高司令塔がそうした問題に対して沈黙の態度を続けている以上、SDGsに関する取り組みで掲げられている言葉がとても空虚に聞こえる。また、報告書で報告された内容は、全体的に言えば後付け感がしてならない。つまり、ほとんどはSDGsを意識して行ったのではなく、これまで関係なく行ってきたこと(例えば100円朝食)、もしくは国連が提唱する意図とは違って関連の薄いこと(例えばデジタル化)を無理やりにSDGsに関連付けているように思う。結局のところ、本学が潜在的な入学希望者の関心を惹き寄せるために、SDGsを宣伝道具に利用しているように感じる。
 - 写真付きで取り組み内容についてわかりやすい
- 3-2で「公開していることは知っていたが、読んだことはない。」を選択した回答者の感想・意見
 - 駒澤大学が取り組んでいるSDGsの活動の理解が深まった
- 3-2で「④ そんな報告書があったとは…知らなかった😞」を選択した回答者の感想・意見
 - SDGsに関する授業があることを生徒は知っているのだろうか。
 - 友人が所属しているゼミの活動報告などもあり、身近なところでSDGsへの取り組みが行われていることを実感できた。
 - 何もしなくていい
 - そもそもその存在さえ知らなかったです
 - メールで各生徒に通知すると、認知度が上がりそうだと思う。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

[つづき]

- SNSなどの宣伝が足りないと思う
- 項目10の「人や国の不平等をなくそう」の取り組みであるピアサポーターの活動がとてもいいなと思った。障害を持っていることにより単位の取得が難しくなるとは同じ授業料を払い、同じ授業を受けているのに不公平だと思ったため。
- どこにあったんですか？
- 学校という団体として取り組みにくい目標もある中で、すべての目標に取り組んでいることに非常に感心した。入学時、oitrや100円朝食、「食」プロジェクト等が行われていることを知り、格差や貧困などへの対応が素晴らしいと思った。加えて、私自身ピアサポーターとして活動していますが、ピアサポーターは障がい学生の支援を行えるだけでなく、サポーターとして活動する私たちにとって、なかなか得がたい貴重な経験を積めるので非常に良いシステムだと思う。松信ゼミ生のLGBTに関する講演も参加したが、基礎的、初歩的なところからLGBTについて学べてとても良かった。概ね見たところSDG's達成のための取り組みが多くなされているがいずれも学生自身が主体的に参加することが求められると思った。SDG's達成に興味がある人は積極的に取り組みに参加するが、そうでない人はお知らせなどのポスターを流し見して素通りするなんてことが多いかもしれない。これは解決することが非常に難しい問題であるが、これを解決することが出来ればもっとSDG's達成へ近づくと考える。そもそも、SDG'sとは何なのか、最近テレビでよく見るけど分からないなんて人が多いと思うので、SDG'sについて内容まで初歩的なところから学べる機会があればと思う。
- 写真が添付されていたり、SDGsの色ごとに分けられていたりしたため、この活動が何の項目で行われているのかが分かりやすかった。
- 私たちに身近な事業でも、SDGsの取り組みにつながっていることが分かった。
- 長い！とパッと見して思ったが、内容がわかりやすかった。図や見出しを読むだけで何を伝えたいのかを、理解しやすいと感じた。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-3. 昨年度調査への回答状況

回答者全員に対して「昨年度の調査（「SDGsに関する意識調査2022」）に回答しましたか。」と聞きました。
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 【2年生以上】昨年度も回答した
- ② 【2年生以上】昨年度は回答しなかった
- ③ 【1年生】昨年度は回答できなかった。

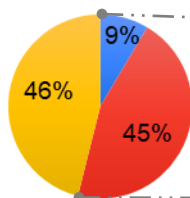
※1年生は「③【1年生】昨年度は回答できなかった」を選択、2年生以上には、「①【2年生以上】昨年度も回答した」または「②【2年生以上】昨年度は回答しなかった」のいずれかを選択していただきました。

【結果】

昨年度の調査から連続して回答した学生は約1割でした。

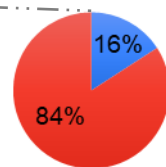
また、2年生以上の回答者（290名）に限ってみると、16%が昨年度から連続して回答しました。

昨年度調査への回答状況（n=538）



■ ①	【2年生以上】昨年度も回答した。	9% (46名)
■ ②	【2年生以上】昨年度は回答しなかった。	45% (244名)
■ ③	【1年生】昨年度は回答できなかった。	46% (248名)

2年生以上回答状況（n=290）



■ ①	昨年度も回答した。	(46名)
■ ②	昨年度は回答しなかった。	(244名)



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-3-1. 「駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」の認知度

回答者全員に「駒澤大学では昨年度より「駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」を公開しています。読んだことがありますか。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 熟読した☺
- ② 読んだことがある。
- ③ 公開していることは知っていたが、読んだことはない。
- ④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹

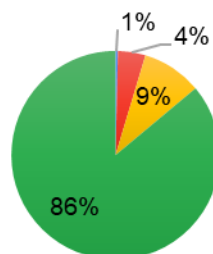
【結果】

「駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」について、回答者のうち86%がその存在自体を知らないという結果となりました。

また、報告書を公開していることを知っていても、実際に読んだことがあると回答した学生は5%しかいませんでした。

「駒澤大学SDGs活動報告書」と同様に、公開方法や周知の方法を検討していく必要があることがわかりました。

「駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」の認知度 (n=538)



■ ① 熟読した☺	1% (2名)
■ ② 読んだことがある。	4% (23名)
■ ③ 公開していることは知っていたが、読んだことはない。	9% (50名)
■ ④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹	86% (463名)



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-3-2. 「駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」に対する感想・意見

回答者全員に「「2022（令和4）年度 駒澤大学SDGs学生対象意識調査結果報告書」のご感想、ご意見がありましたらおしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計9名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

○3-3で「公開していることは知っていたが、読んだことはない。」を選択した回答者の感想・意見

●今回「2022（令和4）年度 駒澤大学×SDGs活動報告書」を初めて読んだが、詳しいデータが表やグラフによって表現されていることでとても分かりやすかった。また、他の学生の意識について知ることができるのも、学生同士で良い影響を与え合える良い機会になると感じた。

○3-3で「④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹️」を選択した回答者の感想・意見

- ジェンダー平等などに強い意識を持つ学生が多いのはとても驚いた。
- それは学生というより、管理層に聞くべきです。
- 表やグラフが用いられているため、見やすかった。
- 食料品の支援や100円朝食を利用したことがあるため、それがSDGsの一環として行われているのだと知ると、これまで知らず知らずのうちに援助してもらっていたのだなあと感じた。また、節電対策などは学校に限らず各家庭でも容易にできることであるから、今後意識して取り組みたいと思うきっかけとなった。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-1. 回答者自身のSDGs活動に対する関心・意欲

回答者全員に「自分もSDGsに積極的に取り組んでいきたいと思いませんか。」と聞きました。

この設問は任意回答です。以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

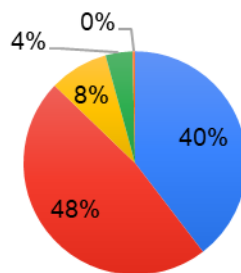
- ① そう思う。
- ② どちらかといえばそう思う。
- ③ どちらかといえばそう思わない。
- ④ そう思わない。

【結果】

自分もSDGsに積極的に取り組みたいという意欲を持つ学生は、「① そう思う」と回答した学生は4割、さらに「② どちらかといえばそう思う」と回答した学生を合わせると9割以上にのぼるという結果になりました。

駒大生のSDGs活動に対する関心・意欲の高さが示されました。

SDGsに対する関心・意欲（現在）（n=538）



■ ① そう思う。	40% (213名)
■ ② どちらかといえばそう思う。	48% (256名)
■ ③ どちらかといえばそう思わない。	9% (46名)
■ ④ そう思わない。	4% (21名)
■ 無回答	0% (2名)



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-2. 最も関心のあるSDGsの目標

全回答者に「SDGsの目標について、最も関心があり、あなた自身が行いたいゴールをひとつ選んでください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。回答者は以下の選択肢から1つ選んで回答しています。

- ① SDG 1 貧困をなくそう
- ② SDG 2 飢餓をゼロに
- ③ SDG 3 すべての人に健康と福祉を
- ④ SDG 4 質の高い教育をみんなに
- ⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ SDG 6 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ SDG 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧ SDG 8 働きがいも経済成長も
- ⑨ SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ SDG10 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ SDG11 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ SDG12 作る責任 使う責任
- ⑬ SDG13 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ SDG14 海の豊かさを守ろう
- ⑮ SDG15 陸の豊かさも守ろう
- ⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に
- ⑰ SDG17 パートナリーシップで目標を達成しよう

【結果】

本設問には、全回答者（538名）のうち469名が回答しました。

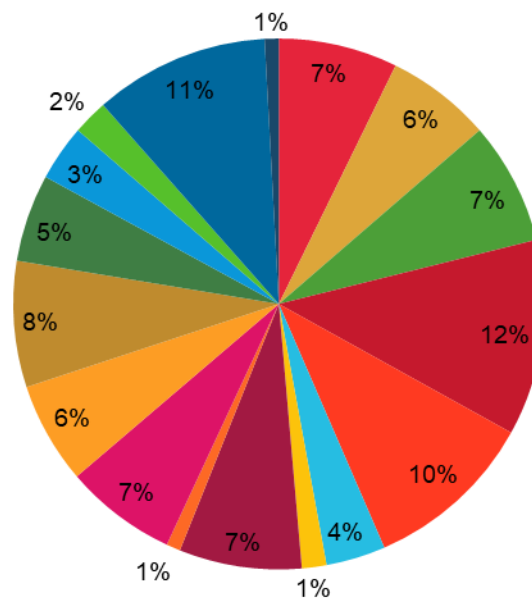
最も多くの回答者が選んだ目標は「④ SDG 4 質の高い教育をみんなに」（12%、56名）、次点は「⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に」（11%、50名）、そして「⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう」（10%、49名）が続くという結果でした。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[結果・つづき]

最も関心のあるSDGsの目標 (n=469)



■ SDG 1 貧困をなくそう	7% (34名)
■ SDG 2 飢餓をゼロに	6% (30名)
■ SDG 3 すべての人に健康と福祉を	7% (35名)
■ SDG 4 質の高い教育をみんなに	12% (56名)
■ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう	10% (49名)
■ SDG 6 安全な水とトイレを世界中に	4% (17名)
■ SDG 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	1% (7名)
■ SDG 8 働きがいも経済成長も	7% (35名)
■ SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1% (4名)
■ SDG 10 人や国の不平等をなくそう	7% (32名)
■ SDG 11 住み続けられるまちづくりを	6% (29名)
■ SDG 12 作る責任 使う責任	8% (36名)
■ SDG 13 気候変動に具体的な対策を	5% (25名)
■ SDG 14 海の豊かさを守ろう	3% (16名)
■ SDG 15 陸の豊かさも守ろう	2% (10名)
■ SDG 16 平和と公正をすべての人に	11% (50名)
■ SDG 17 パートナーシップで目標を達成しよう	1% (4名)



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-2-1. 最も関心のあるSDGsの目標（その理由）

4-2で回答した人を対象として、「4-2の回答理由をおしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計99名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

【SDG 1 貧困をなくそう】

- 私自身が一番取り組みやすい項目と判断したため
- ゼミ内での取り組み内容の為。
- 貧困が一番つらい
- 貧困の問題が一番残酷であり、解決しなければならないと思うため。
- 興味があるから

【SDG 2 飢餓をゼロに】

- 17つの目標の中で、人間が生きるために一番重要なことだと思ったから。
- フードロスが出るのに世界には飢餓に苦しむ人がいるのっておかしいと思ったから。
- 飢餓は苦しいから。というのが本音です。たくさんの方が飢えで苦しんでいる現状、私たちにできることは食品ロスを減らすことです。そして減らした分の食料を与えることで、飢える人を少しずつ減らしていけるかなと思います。実現の難易度は別としても、私にできて、私たちがやらなければならないと思ったので選びました。
- 日本の食品ロスの問題を、私自身が解決すべき大きな目標として認識しているため。
- 食べることは万国万民共通で必須のことだから。

【SDG 3 すべての人に健康と福祉を】

- 医療従事者を目指す人としてすべての健康に生きてほしいと考えるのは必然的なことだと思ったから。
- 文化的な生活を営むためには社会福祉が充実していないと行けないと考えたため
- 海外の貧困国では、ワクチンなどが受けられず、亡くなってしまう子供が多いと聞いたことがあるから。
- 自分が疾患を持っているから。
- 人々の生活水準を高めるために必要なことだと思うから



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- 全ての人の命の重さは同じはずなのに、国の経済力が低いために医療を受けられないというのはおかしな話だと思うから。
- 最低限度の生活すらもできない人々がいることは知っていたが、具体的に意識したことはなかった。そのなかで、人として不自由なく生きるために健康は第一に重要で、次に幸福を得るために福祉を充実させることが不可欠であると思うから、目標3を選んだ。

【SDG 4 質の高い教育をみんなに】

- 自身の研究内容が教育経済学であるため、知識を最も活用でき、貢献できると考えたから。
- SDGs を世界中の人が実践するには、その素地となる知識や思考力が不可欠だと思うから。
- 学びは人生を豊かにするので
- 今年の夏休みに海外で教育を受けられない子供たちを目の当たりにして、日本との教育格差を実際に触れることができたから。
- 国力が良くなれば様々なことが循環して潤うから。そのためには子供の教育が最短ルートであるから。
- 教育が受けていれば周りの目標も達成できると思う
- 整備された環境での正しい教育が貧困や戦争の抑止に繋がると考えたから。
- 17の項目について、これらを実践できるようになることが理想だと思う。その上でこの先実践していくのは自分たちを含める未来を生きる人である。これらの目標の達成には具体的な取り組みを提案・行動に移せる人が必要であり、そのためには土台となる教育が始めに必要なことなのではないかと感じたため。実践できる人を教育・増やしていくことが17の項目全ての達成に繋がる。
- マララ・ユスフザイさんの演説に心を打たれたから。
- 中学のころカンボジアの子達が使い切りのノートが買えず、繰り返し使えるホワイトボードを使って勉強をしているという話を聞いて関心を持ったから

【SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう】

- ジェンダー論に興味があるから。
- 他国と比べて日本はジェンダーギャップに寛容的ではないと思うから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- 他国と比べて日本はジェンダーギャップに寛容的ではないと思うから。
- 男女格差やLGBTQの権利について関心があり、性別や性的指向に関わらず、誰もが平等で生きやすい社会になるべきだと思うから。
- ゼミで学んでいるから
- 近年、LGBTQの方に対する配慮が重要視されている。しかし、かえってマジョリティへの配慮が疎かになっているのでは無いかと前々から気になっていたため。(例)男女共用トイレ…男性と同じ場で用を足すことに抵抗を覚える女性がいるのでは？
- 自分も含めた「女性」が、立場や権利などで差別を受けていることに対して疑問や憤りを感じており、男女平等を実現したいと思うから。
- 日本はジェンダー格差が大きいことが世界的に認知されており、積極的に改善していくべき課題だと感じるため。
- 今日本は先進国の中でも、ジェンダーギャップ指数が下位状態にあり、賃金格差をはじめとする、女性の生きづらさや不平等と感じられる場面が多くあるので、全ての女性、そして全ての人々が何も不便、不快感もなく生活を送れるようになってほしいと思うから。
- 誰しものが自由に生きる権利があると思うから。好きなものを好きなように好きなだけやれる環境をみんなが持つべきだと思うから。
- 日本にも女性差別があると感じることがあるから
- 今現在、ゼミ論文で取り組んでいる内容が、ジェンダー平等に関する内容だから

【SDG 6 安全な水とトイレを世界中に】

- 安全な水の確保は生活に欠かせないと思うから
- 高校時代に取り組んだ内容のため
- 一番不利益が出なそうだから。

【SDG 8 働きがいも経済成長も】

- 経済学部生として、効用を最大化しつつ、経済成長するというのは人類の永遠の課題でもあり、今必要とされている問題だと思うから。
- 日本の高齢社会において今後を考える上でも大事だと感じる。
- これから働く者として働くことに対しての生きがいが必要だと考えているから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- これから働くにとって働きがいも経済成長もしようと言う考えに同意だから。
- 日本では経済があまり成長していないため、その部分をどうしたら成長するのか？問題はなんなのか？という部分に興味があるからです。また、働く環境というのにも興味があるからです。
- 自分の将来に大きく影響するため
- 日本はここ30年不況だから、物価が上がって、賃金は上がらないという働きがいを奪うような状況だから
- 高校生のときに8の目標について調べ、学びを深めたから

【SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう】

- 技術は地球を救う

【SDG10 人や国の不平等をなくそう】

- 格差がなくならない限り、平和にはならないと感じているから
- 他の目標に比べて具体性があるため、取り組みやすそうだから。
- 今でも人種に関連した紛争や、戦争が絶えないから。
- 日本国内の問題は比較的解決してきていると思うが、国外の問題はどうしても他人事になりやすく、意識して取り組もうとしなければ解決しづらいものだから
- 世界各地で争いが多発している。根本的な問題は、差別や不平等があると思う。平和な世の中にするために、差別の解決はきっと不可能であるが、第三者的な立場にいる私は、少しでも理解はしたい。他人事だと思ってしまうが、他人事にはしたくないから。

【SDG11 住み続けられるまちづくりを】

- 私は対世界で取り組むことは一個人としては難しいと思っているので、自分の住む地域などの身近なところから取り組みたいと思う。
- これからも四季を感じていたいから。
- 地方の消滅が個人的に問題だから
- 自分にとって住み心地が良いに越したことはないから。住みやすさは生活に密接に関わるから。
- 都市部、田舎関係なく町の風景が好きでよい景観は保たれるべきと考えているから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- 日本に住み続けたいけど、今の情勢が住みにくく感じるから

【SDG12 作る責任 使う責任】

- ペットボトルなどのプラスチック製品を捨てる機会を減らしたいと思う機会が多いから。すぐに実践できて、経済的にもむしろプラスになるので、自分だけでなく人にも勧めることでSDGsの達成により貢献したいから。
- 大学生は使えるお金が少ないので、安いものを大量消費していると感じるから。
- リサイクルできるものをなるべくリサイクルしたい気持ちがあるから。
- 無駄遣いをしないよう、また環境への配慮を普段から心がけているから。
- この目標に関わること(リデュース・リユース・リサイクルの3Rなど)は自分でもすぐにできるようなものが多いため。
- 経済を学んでいる身なので使うことや作ることへの責任には関心がある
- 地球人として豊かな自然を後世に残したい
- 製造時に石油などを使うものを大量に作りすぎると無駄にCO2を排出することになってしまいうし、逆の廃棄時にもCO2を排出してしまう恐れがあるので、リサイクルなどを意識して生活できるようになれば僅かでも協力できると考えるから。
- ものを大切にしていきたいから
- ファッションに興味があり、古着屋で服を買うことが多いので、リユースや衣服の廃棄問題に関心を持っていたから。
- 消費者として環境に配慮すべきだと思うから

【SDG13 気候変動に具体的な対策を】

- 今後私達が住み続けられるようにするため。さらに、動物などが絶滅せず、住みやすい環境を整えたいため。
- カーボンニュートラルに関心があることに加え、今夏は異常気象を経験したため自分事として気候問題について考えていかなければならないと思ったから。
- 地球温暖化が問題になっていながら、これといった対策ができていないと感じているから。
- 対策を進めていかなくは悪化を続けて大きな問題に繋がっていくため

【SDG14 海の豊かさを守ろう】

- 我々が口にするものだから、間接的に私たちに影響するから



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- 海が好きだから。
- 生き物が好きだから原因が明確だから
- どんな場所でも綺麗な海で泳ぎたいし美味しい魚を食べたい
- 海が汚いとヨットの練習をするときに気持ち悪い、そもそも練習ができなくなる
- 海が好きだし、海洋生物にも興味があるから。
- 高校の時にこの目標について取り組んだから

【SDG15 平和と公正をすべての人に】

- 動物が好きだから。
- 都会の中にも豊かな自然が大事

【SDG16 平和と公正をすべての人に】

- 理不尽や矛盾の根本的な問題を解決するためにはこの条件が必要不可欠だと考えているから。
- 平和がいいから
- ウクライナ侵攻に始まりガザ地区侵攻など私達世代が経験したことない戦争が日々ニュースで取り上げられ、平和に対する意識を改めて感じさせられたから。
- 理由といたしまして、今日の世界ではウクライナやパレスチナで戦争が起き、台湾やインドでも近いうちに情勢が変化します。そのため、平和がどんどん崩れていきます。こういう世界で私ができることは、友好国と一緒に日本を守ることだと考えています。なぜならば、日本が防衛力の強化と友好国との関係構築をすることで、侵略戦争を起こす側のリスクを上げさせ、戦争の事前防止と平和の再建をできるからです。もし日本がその道を歩まなければ、我が国は侵略者に屈し、自分たちの平穏な生活は瞬く間に崩れるでしょう。したがって、具体的に私がすることは、防衛省に事務職として入省することだと考えています。そうすることによって、自衛隊員の待遇を上げ、隊員の拡張ができ、日本の全体的な防衛力の強靱化に繋がるからです。
- 個人でもできることだから。
- 現在、ロシアとウクライナの戦争や、その他紛争が絶えないから。
- 戦争が問題になっているから



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- 戦争が起きているうちは不平等も生まれるし、貧困や食料不足が起きてしまうから。
- 世の中には多くので理不尽があり、それが少しでも減らせればと思っている。

【SDG17パートナーシップで目標を達成しよう】

- 人々は協力する必要があると思うから。
- 自分でもできそうだから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-3. 回答者自身のSDGs活動に対する関心・意欲（卒業後）

回答者全員に「卒業したら、SDGsに関連する分野で働きたいと思いませんか。」と聞きました。

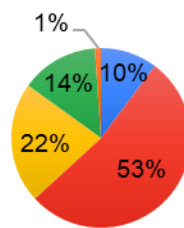
この設問は任意回答です。回答者は以下の選択肢から1つ選んで回答しています。

- ① そう思う。
- ② どちらかといえばそう思う。
- ③ どちらかといえばそう思わない。
- ④ そう思わない。

【結果】

卒業したらSDGsに関連する分野で貢献したいという関心・意欲をもつ回答者は、「① そう思う」および「② どちらかといえばそう思う」を合わせて、約6割という結果になりました。

SDGs活動に対する関心・意欲（卒業後）（n=538）



■① そう思う。	10% (55名)
■② どちらかといえばそう思う。	53% (285名)
■③ どちらかといえばそう思わない。	22% (117名)
■④ そう思わない。	14% (75名)
■無回答	1% (6名)



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-4. 最も関心のあるSDGsの目標（その理由、卒業後）

4-3で「① そう思う」または「② どちらかといえばそう思う」と回答した人を対象として、「4-3について伺います。それはどのような分野のどのような活動ですか。具体的におしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計43名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

4-3で「① そう思う」を選択した回答者の感想・意見

- 食品を貧困地域に届ける、さらには支援の方法を考える。
- 具体的には国家公務員です。農林水産省にて日本の食の問題を解決したい。
- 教員
- 性的マイノリティーを支える活動がしたい
- 自分の興味分野である中南米に教育や整備のボランティアに行きたい
- 海洋周辺のゴミ拾いボランティア活動など
- 現在の日本の企業は大体SDGsにまつわる活動をしているものだと勝手に思っています。

4-3で「② どちらかといえばそう思う」を選択した回答者の感想・意見

- 今の仕事はどの分野においてもSDGsへの取り組みが必須であり、アピールにもなるので、特定の分野ということはないが、世界中で今ある地球環境を保護していこうという取り組みにはとても注目している。
- メーカーが実施する「プラスチック製造による環境負荷」や「プラスチック廃棄による環境負荷」を削減するために、環境に配慮した素材を使用する活動。
- 医療分野の診療放射線技師としての活動
- 市のまちづくりに関する分野
- 高齢者介護など
- 教育
- 教師
- ビーチクリーン活動に参加したりする。
- 不平等や不公平を押しつけられている人々を法に基づく行政活動で助けたい。
- 教育に関すること
- 世界中の子どもを笑顔にできるような活動を自らしていきたい。
- ジェンダー平等⇒性差関係なく、自分の着たいファッションをすることができる社会を目指す



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[つづき]

- 雑誌や本などのメディアを通して、SDGsについてより多くの人々に伝えるような活動。
- 出版社においてSDGsに関する書籍を編集、出版するなど、読者のSDGsの認知を広げていく等。
- 具体的にはまだ考えられていないが地域に関わる仕事(SDG11)
- 教育
- 環境問題に関する分野
- 地域創生に関する活動や役所の活動。
- 町づくり
- 食品系のメーカーで、たとえばアレルギーがある人、何か体に制限があるひとなど、私たちが当たり前で食べることができるものを何か事情があって食べることができない人たちに対して、みんなでご飯を楽しく食べることができる提案、場所、食品を積極的に売り出すこと。（わざわざ商品数の多いスーパーとかに行かなくてもどこにでも売ってるとか、どのレストランでもいろいろな人々に対応したメニューがあるなど、今特別とされていることが当たり前となれるようにする）
- 教職に就いて、社会の諸問題の解決に取り組めるように育成する
- 教員になって生徒達と話し合いながら取り組みたい。
- 外交官や国連職員など。
- 働き甲斐を得られる労働環境
- 世界の地球環境
- 海外
- 自然を守りながら町を発展させる活動
- 英語を使用し、他国との交流を深め国際的にその活動を行いたいです。
- 全ての人が自分の仕事に自信を持って働くことができる環境をつくりたい。



5. SDGs 活動の経験

ここでは、学生生活全般を通じたSDGs活動の経験について聞いています。学生生活全般とは、回答者が本学の学生になって以降の正課授業・課外活動・プライベートを指します。

5-1. SDGsについて学んだ機会

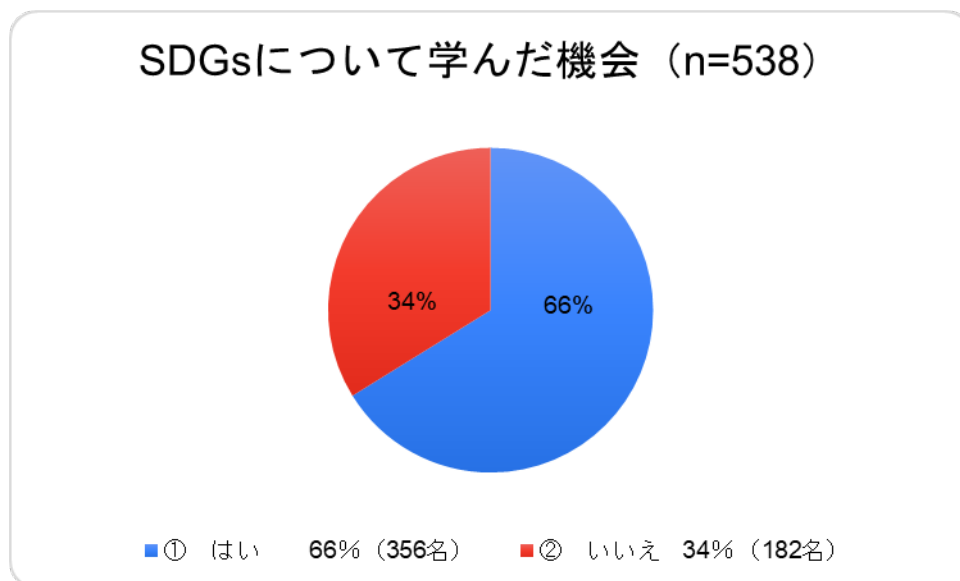
回答者全員に「SDGsについて学ぶ機会がありましたか。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① はい
- ② いいえ

【結果】

学生生活全般を通じて、SDGsについて学ぶ機会があったと回答したのは、全回答者（538名）の66%にあたる356名でした。

昨年度の調査結果（回答者218名の56%にあたる95名が「① はい」と回答）と比較すると、SDGsについて学ぶ機会があったとの回答が1割増加しました。





5. SDGs 活動の経験

5-1-1. SDGsについて学んだ機会（内訳）

5-1で「はい」を選択した回答者に「5-1の回答について伺います。それはどのような機会でしたか。当てはまるものをすべて選択してください。」と聞きました。

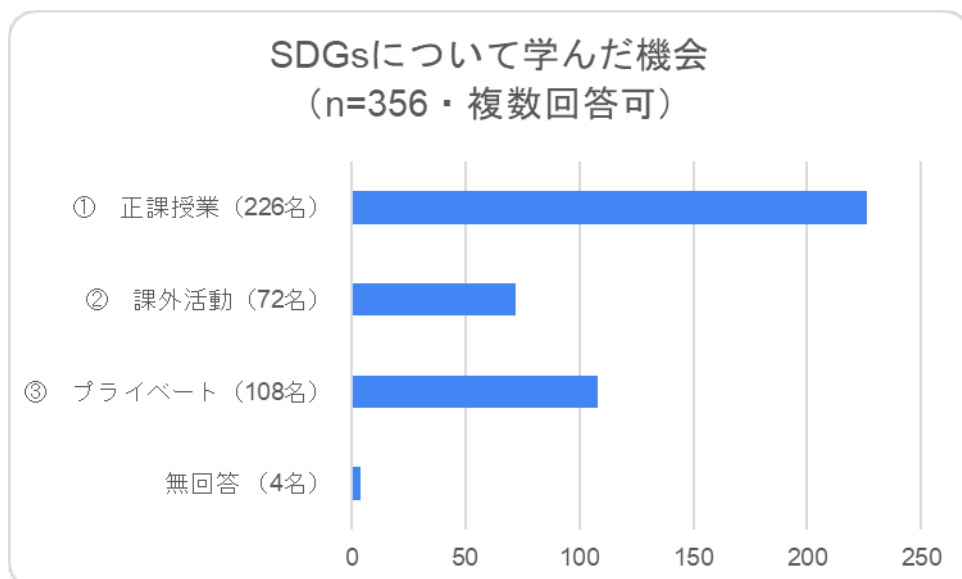
この設問は複数選択可能、かつ任意回答となっています。

回答者は以下の選択肢から当てはまる選択肢を回答しています。

- ① 正課授業
- ② 課外活動
- ③ プライベート

【結果】

本設問の回答対象者356名のうち、352名から回答（複数回答可）が得られました。最も回答が多かったのは「① 正課授業」で、本設問の回答対象者（356名）の6割以上（226名）が選択しました。これは、全回答者（538名）の4割に相当します。今回も多く多くの駒大生が正課授業でSDGsを学んでいることが示されました。プライベートの時間にSDGsについて学んだ学生は、全回答者（538名）のうち、2割に相当する108名いました。駒大生がSDGsの分野の学びにおいて自己研鑽に励んでいると推測できます。





5. SDGs 活動の経験

5-1-2. SDGsについて学んだ機会（概要）

5-1で「はい」を選択した回答者に「5-1の回答について伺います。大学生になって以降、SDGsについて学んだことの中で、最も印象に残っているのはどのようなことですか。概要をおしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計30名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- 5-1-1で「① 正課授業」を選択した方の回答
 - 新入生セミナーで学んだジェンダーの問題について
 - キットカットのパーム油使用に関する抗議
 - 誰しものがSDGsに貢献できる。
 - 貧困率の高い国での社会活動をする団体を支援サイトにて実際に融資したこと。
 - 環境問題について
 - 飢餓の話です。日本人の毎食の食品ロスの量は一人あたり平均お茶碗一杯分だそうです。人口一億人による毎日三食の食品ロスは、それだけで多くの人を救えると教わりました。
 - 性差別
 - ヤクルト（会社）はSDGsに貢献している
 - クリーンな発電方法について
 - 英語の授業で、様々な民族や言語が存在することを知ったこと
 - 比較憲法の講義で、同性婚を認めないことに対して違憲状態だという判決が下される事例が増えていること。
- 5-1-1で「② 課外活動」を選択した方の回答
 - 中学の生徒会活動でSDGsの一環でペットボトルのキャップ集めをしたことが印象に残っています。
- 5-1-1で「③ プライベート」を選択した方の回答
 - 資源リサイクル活動
 - 家電量販店での営業バイトで省エネについて学んだ
 - 松信ゼミ生のLGBTに関する講演。
 - 大学のウォーターサーバーの設置。



5. SDGs 活動の経験

[つづき]

- 授業で日本の文化について調べた際に、SDGsの17の目標のうちの「12 作る責任 使う責任」などに当てはまるような、廃棄衣料由来の素材を使用して作られている文房具などについて調べたことがある。
 - 校内のポスター
 - 少なくとも日本のなかでも教育機会の平等に向けて進んでいること。
 - 友達が物凄く真剣に考えていてそういう人ではなかったから驚きました。
- 5 - 1 - 1 で複数の選択肢を選択した方の回答
- 著書、資本論でSDGsの開発目標という点を否定していること
 - 友達にバイセクシャルの人がいたこと
 - 服の大量廃棄問題について研究した。
 - 生ゴミがいちばんの問題だが、生ゴミを土に帰せば肥料にできるということ。
 - ジェンダーレス社会の実現の現状と難しさ



5. SDGs 活動の経験

5-2. 学生生活におけるSDGs活動の経験

回答者全員に「学生生活全般を通じて、SDGs活動に取り組んだことがありますか。」と聞きました。

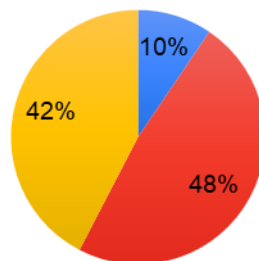
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 主体的に取り組んだ。
- ② (一応) 取り組んだことがある。
- ③ 取り組んだことはない。

【結果】

全回答者(538名)のうち、1割がSDGs活動に「① 主体的に取り組んだ」と回答しました。さらに、「② (一応) 取り組んだことがある」まで加えると6割に近い回答者が、学生生活の間になんらかのSDGs活動に取り組んだ経験があることが示されました。

学生生活におけるSDGs活動の経験 (n=538)



■ ① 主体的に取り組んだ。	10% (51名)
■ ② (一応) 取り組んだことがある。	48% (259名)
■ ③ 取り組んだことはない。	42% (228名)



5. SDGs 活動の経験

5-2-1. SDGsについて取り組んだ機会（内訳）

5-2で「主体的に取り組んだ」および「（一応）取り組んだことがある」を選択した回答者に対して、

「5-2の回答について伺います。それはどのような機会でしたか。

当てはまるものをすべて選択してください。」と聞きました。

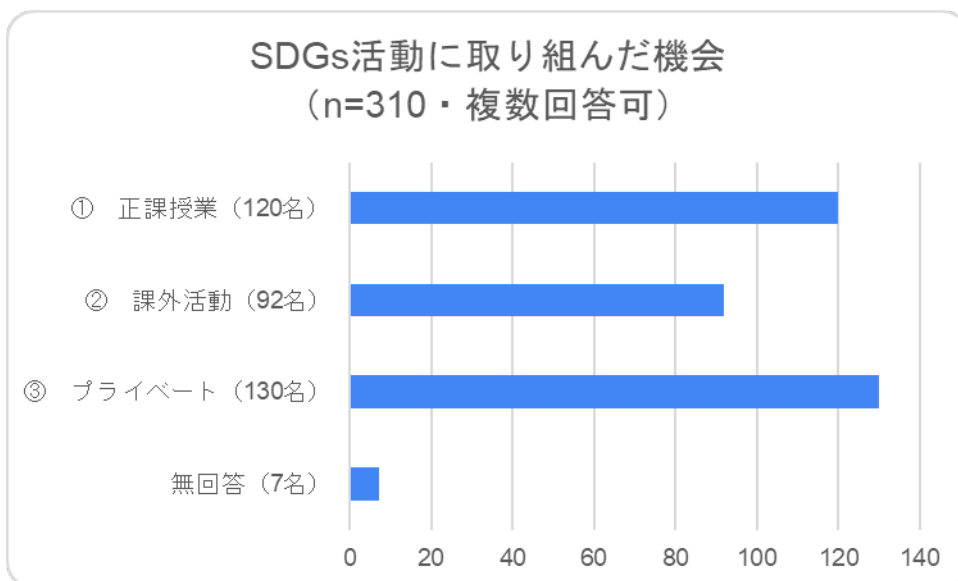
この設問は複数選択可能、かつ任意回答となっています。

回答者は以下の選択肢から当てはまる選択肢を回答しています。

- ① 正課授業
- ② 課外活動
- ③ プライベート

【結果】

本設問の回答対象者310名のうち、303名から回答（複数回答可）が得られました。最も回答が多かったのは「③ プライベート」で、回答対象者の4割（120名）が選択しました。これは、全回答者（538名）の1/4割近くに相当します。多くの駒大生がプライベートの時間にもSDGs活動に励んでいます。





5. SDGs 活動の経験

5-2-2. SDGsについて取り組んだ機会（概要）

5-2で「主体的に取り組んだ」および「（一応）取り組んだことがある」を選択した回答者に対して「5-2の回答について伺います。大学生になって以降、SDGsについて取り組んだことの中で、最も印象に残っているのはどのようなことですか。概要をおしえてください。」と聞きました。
この設問は任意回答です。合計24名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- マイボトル
- SDGsとして、大学側が行っていた食料品配布に携わらせていただいた。
- 駒澤大学主催の食の支援プロジェクト
- ペットボトルのお茶ではなくマイボトルに入れたお茶を持ち運ぶこと。
- マイボトル配布
- 食品ロスを少なくするために手前取りをしている
- 食品ロスを減らすことを意識して、自分が食べることができる量を作ったり注文したりすることに取り組んだ。
- 調理で出た油は流さずペットボトルに入れている。
- 水筒を持参すること。
- 毎食の量を健康に影響がない範囲で極力減らしたこと。不必要なものは絶対に買わないようにしたこと。
- ピアサポーターとしての活動。
- 買い物などの際にはマイバックを必ず持参するようにしている。
- 海のプラスチック拾い
- 今SDGsについて英語での発表を準備している。
- エシカルファッションブランドが抱えている問題を考えるインターン
- 食品ロスを減らせるよう日頃から前取りを心がけてる
- コンビニなどで袋をもらわない
- フードロス
- 海外ボランティア
- バイトで廃棄をもらったり有効活用している
- 地域の消防団で防災知識を普及させるために、防災訓練に参加したこと。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-1. 駒澤大学に取り組むことを最も期待するSDGsの目標

回答者全員に

「SDGsの目標について、駒澤大学に取り組みを期待するのはどの目標ですか。最も期待する目標をひとつ選択してください。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① SDG 1 貧困をなくそう
- ② SDG 2 飢餓をゼロに
- ③ SDG 3 すべての人に健康と福祉を
- ④ SDG 4 質の高い教育をみんなに
- ⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ SDG 6 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ SDG 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧ SDG 8 働きがいも経済成長も
- ⑨ SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ SDG10 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ SDG11 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ SDG12 作る責任 使う責任
- ⑬ SDG13 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ SDG14 海の豊かさを守ろう
- ⑮ SDG15 陸の豊かさも守ろう
- ⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に
- ⑰ SDG17 パートナースhipで目標を達成しよう

【結果】

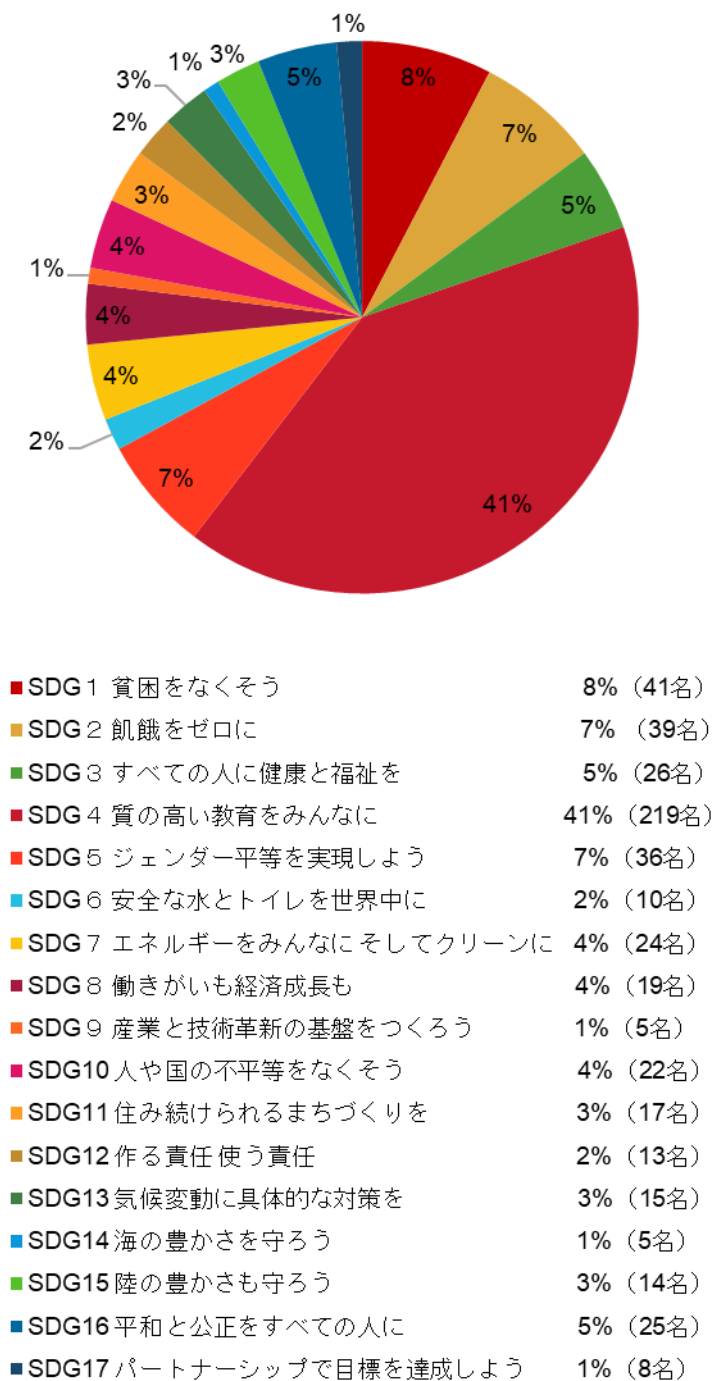
最も多くの回答者が選択した目標は、「④ SDG 4 質の高い教育をみんなに」(41%、219名)でした。全回答者の4割に選ばれています。次点は「① SDG 1 貧困をなくそう」(8%、41名)、「②SDG 2 飢餓をゼロに」(7%、39名)、「⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう」(7%、36名)と続くという結果になりました。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[結果・つづき]

駒澤大学が取り組むことを
最も期待するSDGsの目標 (n=358)





6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-1-1. 駒澤大学に取り組むことを最も期待するSDGsの目標（その理由）

回答者全員に「6-1の回答理由をおしえてください。」と聞きました。
この設問は任意回答です。合計61名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

【SDG 1 貧困をなくそう】

- 経済的な問題に関わらず、勉強したい人が思う存分勉強のできる環境を整えて欲しい。
- 私自身、奨学金を借りている身なので留学などの数々のイベントを諦めてきました。そのため、経済状況が原因でやりたいことを諦める人がいなくなって欲しいと思っています。
- 様々な経済状況の人達がいると思うから。
- 貧困をなくすのが一番大事だと思ったから
- 現在、物価高騰が顕著となる中で、全ての学生が健康的に楽しく生きることが大切だと個人的には感じているから。

【SDG 2 飢餓をゼロに】

- ONE PIECEを読んだから
- 前期に大学生支援的なもので食料品を配ってくださっていたので、このまま取り組んでいただくと助かる人も多いかなと思ったからです。
- 以前食堂にて食品ロス削減の呼びかけを見たが、依然として残飯は多く出ているのでこの活動を続けてほしい。
- 学食に残飯がいつも多いから。
- 100円朝食という活動がとても素晴らしいなと思った。昼ご飯や、少し営業時間を伸ばして夜ご飯でも実施されたら、助かる学生もいるのではないかと考えたから。

【SDG 3 すべての人に健康と福祉を】

- 命に係わると思うから
- 歯科検診や健康診断を引き続き実施してほしい
- 健康でいることが一番大事だと思うから。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[つづき]

【SDG 4 質の高い教育をみんなに】

- 大学には学術的な学びを期待する。大学であることを活かした活動をしてほしい。
- 教育機関であるから。大学ごとに教育の差があるならば大学の意義は薄れると感じる。
- 教育機関なので
- 学校は教育機関ですから、そのほかの選択肢は日本政府のやるべきことです。
- 学校は勉学に励む場所なため
- 学校だから。
- 教育機関だから
- 教育現場であるから。
- 学びは人生を豊かにするので
- 駒澤大学は教育機関で取り組みやすいし、また取り組まねばならない必然性があるから。
- 学舎としてまずは学習関連なのではないかと考えたため。
- 教育機関だから
- 教育機関なら専門分野で活躍すべきだと思ったからです。
- 学校なので、そのメインである教育面で最も貢献できると思うから
- 非効率な授業が多いから
- 質の高い教育を期待して駒澤大学へ進学したから
- 大学だから
- 学食など、廃棄の量を減らす。また教育にSDGsを取り入れる。
- 教育機関としてもっとも果たすべき課題だから。

【SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう】

- 17の目標の中で私が最も注目している目標だから。
- 身近にトランスジェンダーの友達がいるから。

【SDG6安全な水とトイレを世界中に】

- 水が安心して飲めることは、生きるうえでの最重要事項と考えたため。

【SDG 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに】

- 普段使用されていない教室も電気が付いたままになっているから



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[つづき]

- 大学内では多くのエネルギーを使っていると思うのでそれらを使ったCO2も排出していると思うため、関わっていく必要があると思う。

【SDG8 働きがいも経済成長も】

- 大学とは社会を学ぶところであると思うから。
- 大学という教育機関においてはこれから先社会を担っていく学生に就活を絡めて説明しやすい・取り組みやすいものだと考えたから。
- 働きがいのある社会・経済成長が見込める社会になれば、より他者や周りへの考え方も豊かな社会に繋がると思う。大学生は社会人になる一步手前の立ち位置であり、社会をよく見て、心も豊かになるような社会を作っていくことが可能だと考えるため。

【SDG10 人や国の不平等をなくそう】

- 学生によって、役立つ情報を知っている人とそうでない人の差があると感じるから。
- 仏教の精神に合っており、かつ具体的に取り組みやすそうだから。

【SDG11 住み続けられるまちづくりを】

- 大学にできることが他に思い付かなかった
- 地理学科として持続可能な地域開発は重要であると考えているため。
- 駒沢という、立地がいい場所に大学があるから。

【SDG12 作る責任 使う責任】

- 仕事をするようになると提供する側になってその責任を問われる立場になるから、学生のうちから意識啓発を図って欲しいと思ったから。

【SDG13 気候変動に具体的な対策を】

- 消去法と実現的な可能性で選びました。というのも、貧困関係の目標を達成する方法として金や食料の寄付が私の中で上がりましたが、それは根本的な解決となっておらず、金を稼ぐ方法や食料を確保する方法を伝えなければいけません。かといって、我が校には建築系や農林水系の人材はおりません。したがって、13番の目標が宜しいと存じます。
- 一番行いやすい項目であると思ったから



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[つづき]

【SDG14 海の豊かさを守ろう】

- 海が好きだから

【SDG15 陸の豊かさも守ろう】

- 割と学校の周りに木が多いから。
- 地震があっても大丈夫なようにしてほしい
- 具体的な行動ができると思うから
- 住宅の建設費が高すぎる。建設業を守っているような制度、例えば作業員の派遣斡旋を解禁するなど、新築を建てるのも規制した方がいいと思う。
- 緑を増やして活発にする

【SDG16 平和と公正をすべての人に】

- 未だに人権意識が低い状態にあるから
- 尖閣諸島、竹島、北方領土などいろんな問題に関心があるか
- 平和が1番



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-2. 駒澤大学へのSDGsにかかわる期待

回答者全員に「SDGsに関連して、駒澤大学に期待することを教えてください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。合計31名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- 不可解をなくすこと
- 多くの学生がまじめに授業に取り組んでいるとはいいがたい。自主的に学びたいという気持ちが足りていない人が多いと感じるため、生徒の意識改革が必要かもしれない。
- 教員を目指す学生への支援を手厚くしてほしい。
- 学生、教授ともにより高度で生産的な教育がなされる場所になることを期待します
- 学生参加型、あるいは日常から学生が気にして取り組めるようなSDGsに関連した取り組みやキャンペーンなどがあったらいいなと考えていたことがある。
- 期待していない
- 学生たちが労働に意欲を持つように、今後の日本を任せられる人材を育成することを期待する。
- 積極的に関わり、精力的に発信していくことを期待します。
- 駒澤公園を中心に緑を増やしてほしい
- 授業において講義内容に絡めて説明があるといいと思う。前期にSDGsに関するような講義を受けたが直接的なものでなくとも面白いし見聞の幅が広がった。
- 大学生にとどまらず、周囲を巻き込んで飢えで苦しんでいる方に食べ物をいち早く届けられるようにしていただけることを期待しています。
- 具体的な方法といたしましては、節電や屋上にソーラーパネルを設置するなどです。ただ、もう本校はそのようなことはしていますが。
- 全ての学生が基本的な生活と学業を獲得できるように支援していただきたいです
- 経済支援型学内奨学金受給の条件を緩和していただきたいです。
- SDGsについて学ぶ機会をもっと設けて欲しいと思う。
- 公開講座を数多く安価に提供してほしい。ネットでも。
- 食についてのボランティア



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[つづき]

- SDGsを批判するような真面目な著書を紹介して学生達に物事の本質を考える機会を与える。
- 大学は優秀な人材を育てることで最も社会に貢献できると思うので、よりよい学習環境を整備することなどに注力してほしい。
- できることから始めれば良いと思う
- 学ぶ機会、考える機会をたくさん設けてほしい。生徒からの意見をしっかり反映させてほしい。
- ジェンダー平等を意識しすぎて過度に本来の姿を失うような改革はやめてほしい
- 講義の抽選を無くして欲しい
- 自然あふれるテラスを作る
- 駒澤大学は時々食料配布を行なっているので、これからもその活動を続けてほしい。
- 教育に取り入れたり、SNSなどを発信する必要がある。
- 所得関係なく、学力優秀者を支援してほしい。学費以外にも、学びにお金を使いたい。資格を取りたいが、お金がかかる。
- 地域協力の具現化。



6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲

ここでは、駒澤大学の今後のSDGs活動について希望や意見を聞いています。

6-3. 駒澤大学が行うSDGs活動への参加意向

回答者全員に「今後、駒澤大学において、SDGs推進に関する取り組みが行われる場合、どのようなものに参加してみたいですか。（複数回答可）」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ以上選択して回答しています。

※ 「⑤ 参加したくない」を選択した回答者が、他の選択肢も選択している場合、「⑤ 参加したくない」以外の選択肢については集計していません。

- ① 正課授業
- ② 課外活動（部活動・サークル）
- ③ 大学が主催／共催するイベント
- ④ 大学が主催／共催する講演会
- ⑤ 参加したくない
- ⑥ その他

【結果】

全回答者（538名）のうち、「⑤ 参加したくない」と回答したのは約1割（61名）で、9割近くの回答者は駒澤大学が行うSDGs活動への参加意欲があることが示されました。

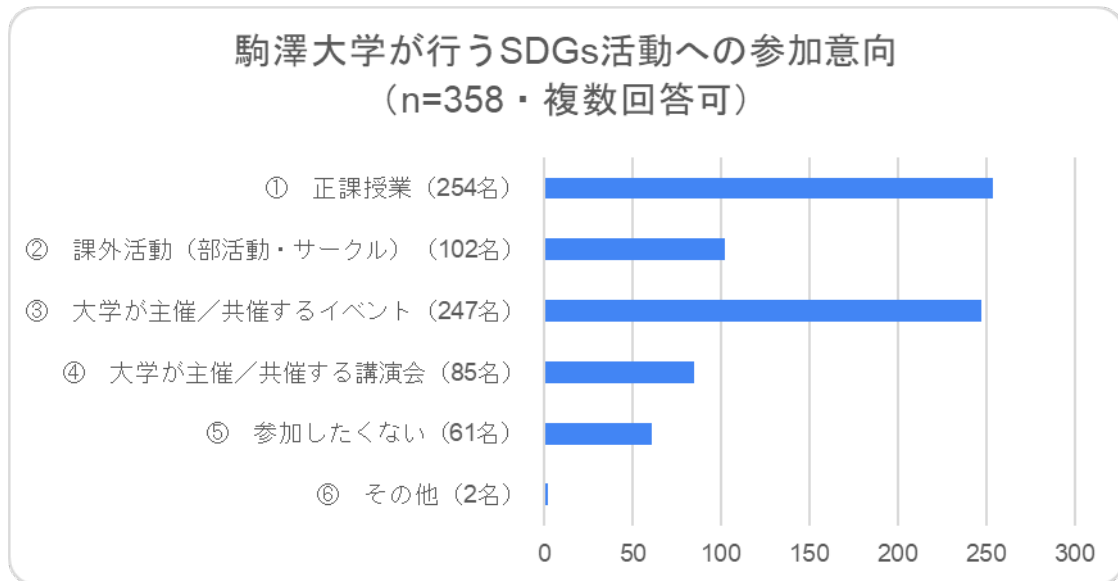
参加意欲のある回答者（477名）から最も多く参加の意向を得たのは「① 正課授業」（254名）でした。次点は「③ 大学が主催／共催するイベント」（247名）で、これら2つの活動は、参加意向のある学生の半数以上から選ばれています。

「⑥ その他」（2名）の詳細として、「オンライン参加」、「キャンペーン等」といった意見が挙がりました。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[結果・つづき]





6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-3-1. 駒澤大学へのSDGsにかかわる期待・参加意欲

回答者全員に「「6-3」の回答について、具体的にイメージする取り組みがありましたらおしえてください。」と聞きました。

例：「●●について学ぶ授業を受講したい!」、「学部・学年の枠を超えて、●●の目標についてディスカッションする機会が欲しい!」等。

この設問は任意回答です。合計35名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- 学年学部関係なくボランティア活動を共にしたい。自分が探して来るのでこねこで配信して欲しい。もしくは、募金活動や大学内でのイベントのようなものを企画したり、許可などその他諸々細かいことをするので、やりたい!!!
- オータムフェスティバルのおてつたびの公演は面白かった。
- ジェンダー平等について学ぶ授業を受講したい
- 海や山での現状と私たちにできることについていろんな人と話し、考える時間があたらうれしいです。
- 公開講座とかも、各学部タテ割りで行われるので、SDGsのテーマで横串にパネルディスカッションとかしてもらいたい。
- 自身の研究について、同学部・同研究科にこだわることなく、発表できる機会が欲しい。
- 1つの目標を解決するために私たちの生活の中でどのようなところが改善できるかを、学部学科の域を超えて話し合ってみる。
- フィールドリサーチ型のコミュニティ活動
- 駒沢公園でのごみ拾いなどのボランティア活動
- 駒沢大学駅が来年大きくリニューアルしますが、どのような面が画期的なのか、環境にどれほど配慮しているのかを多くの生徒が知る機会が欲しいです。（自主的に調べた際にとっても興味を持ったため。）
- 実践形式がいいと思う。実際に木を植えにいくなど。
- グループ活動をするようなかたちがやりたい。
- 地域の子どもとまちづくりについて考える機会、実際に歩いて考えてみる機会。
- 世界のSDGsの感じ方
- 学部学科を超えて住みやすい町にするためにどうすれば良いかを話し合いたい
- ジェンダー平等についてのイベント、講演会に期待する。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[つづき]

- SDGsに関する知識を深めるような機会が欲しいです
- 環境に詳しい専門家、実際に環境を仕事としている政治家等の講演会。
- サークル
- 海のゴミ拾い
- 課外授業でSDGsに関するプレゼンを行いたい。
- 従来の形でよろしいかと思えます。理由は、もし正課授業にSDGsを扱う授業を入れたところで、生徒の皆様は高校で耳が腐るほどSDGsについて聞いているため、効果は少ないと存じます。そのため、やりたい人がやる、そのような形が宜しいと存じます。
- 貧困、ジェンダー平等について学ぶ機会がほしい。
- それは、あなたたちの仕事です。
- ペットボトルのふたを分ける場所が欲しい。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-4. 駒澤大学が行うSDGs活動への学生サポーターとしての参加意向

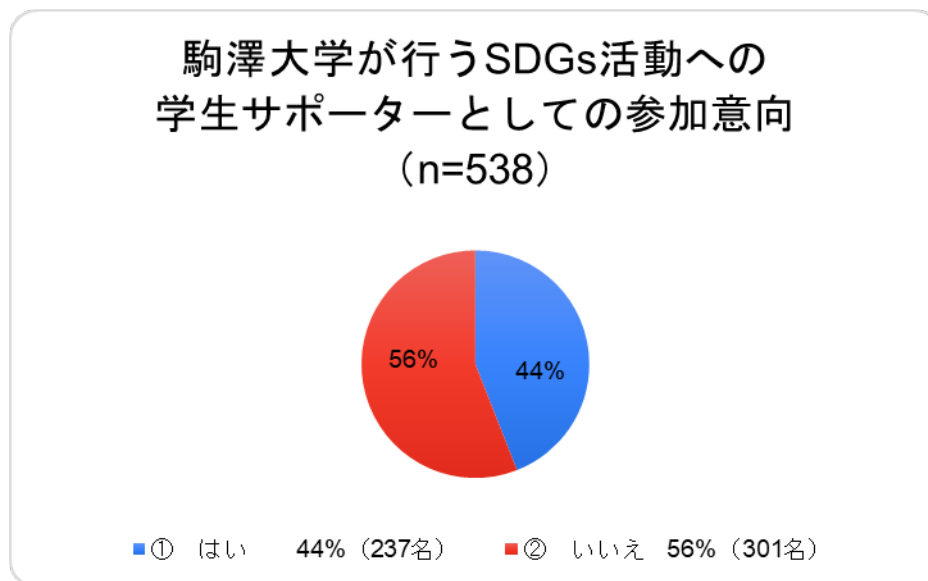
回答者全員に「今後、駒澤大学で、SDGs推進に関する取り組みについて、スタッフとして学生サポーターの募集があった場合、参加してみたいですか。」と聞きました。

この設問は必須回答となっているため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① はい
- ② いいえ

【結果】

全回答者（218名）の半数近く（46%）となる117名が、「① はい」と回答し、今後駒澤大学で開催するSDGs推進に関するイベントや講演会に学生サポーターとして積極的に参加する意欲があることが示されました。





6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-5. 駒澤大学が行うSDGs活動への学生サポーターとしての参加意向

回答者全員に「この調査について、どのような経緯で知りましたか。」と聞きました。

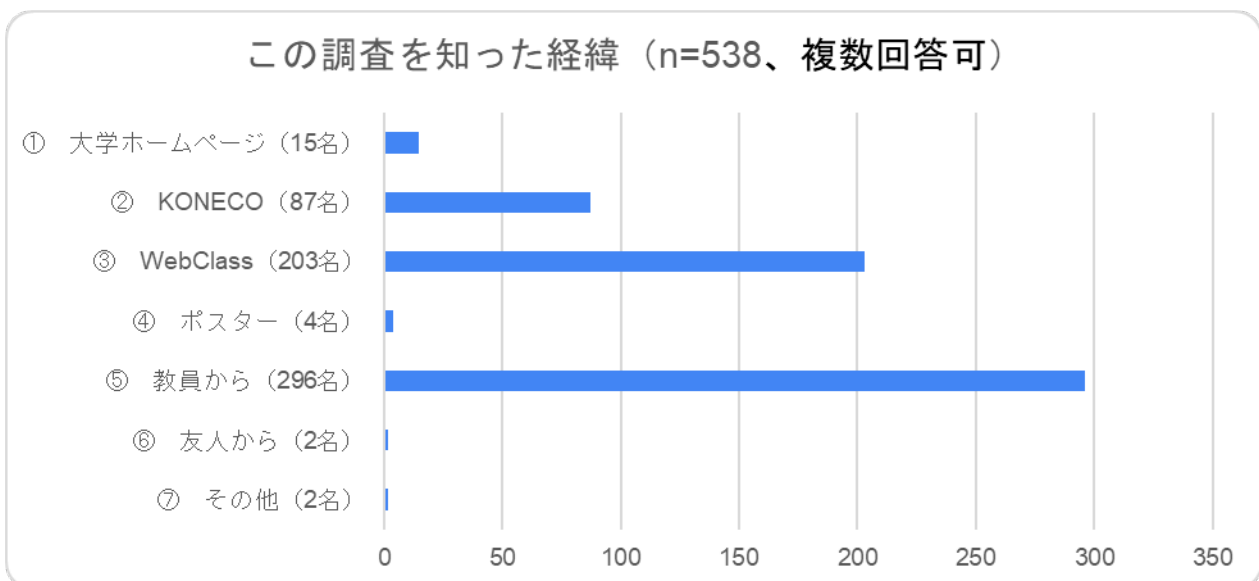
この設問は複数選択可能、かつ必須回答となっています。

回答者は以下の選択肢から当てはまる選択肢を回答しています。

- ① 大学ホームページ
- ② KONECO
- ③ WebClass
- ④ ポスター
- ⑤ 教員から
- ⑥ 友人から
- ⑦ その他

【結果】

全回答者（538名）の55%におよぶ296名が「⑤ 教員から」を挙げました。これに「③ WebClass」（203名）、「② KONECO」（87名）が続きました。





3. 資料

1. 周知用ポスター「駒澤大学SDGs意識調査2023」

駒澤大学

SDGs 意識調査 2023



駒澤大学では、2022年4月28日に「SDGs 実行宣言」を行って以降、積極的にSDGs啓発活動を推進しています。今年度も学生の皆さんを対象とした「SDGs 意識調査」をGoogle Formsを利用して実施します。以下のQRコードより調査へのご協力をお願いいたします。

	回答はこちらから	2022年度調査結果
対象者：駒澤大学 学部生・大学院生		
回答締切：2023年11月30日(木)		
所要時間：5分～10分程度		



【本件担当】

駒澤大学 社会連携センター



しなやかな、意思。

駿澤大学

発行日
発行
事務局

2024（令和6）年3月26日

駿澤大学社会連携委員会

駿澤大学 学術研究推進部 社会連携課（社会連携センター）